

No.	
策定年月	令和3年5月
見直し年月	令和3年7月 令和3年10月 令和4年5月

## 麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：愛知県

## 1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

### (1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

愛知県は、田の耕地面積41,500ha(2021年)に対し、水稻の作付面積が28,700haを占める。一方、小麦については作付面積5,780haと全国6位、収穫量は29,400tで全国4位、さらに、収量性の高い品種「きぬあかり」への転換等により10aあたり収量は509kgと全国2位であり、全国でもトップレベルの生産性の高さである(2021年実績)。大豆についても作付面積は4,470haと全国11位であり(2021実績)、また、2020年には収量性の高い「フクユタカA1号」への全面切替が完了し、今後の生産性向上が期待される。加えて、麦・大豆の9割以上が田で作付けされるなど、全国でも水田の高度利用が進んだ地域の1つである。

本県産小麦の需要については、製麺性の高い日本麺用品種「きぬあかり」への品種転換及び生産者の技術向上による品質安定を背景に、2016～2020年まで5年連続で購入希望数量が上回った。2021年及び2022年は需要の低下が見られるものの、県内人口が750万人と多いことから、今後も一定の需要が見込まれる。また、近年パン・中華麺用品種「ゆめあかり」の導入が開始され、「きぬあかり」とは異なる用途での需要に応えられる体制が整いつつある。大豆については、その高い需要を反映して例年、落札価格は全国平均よりも高く、今後も同様の傾向が想定される。

本県では、「稲・麦・大豆生産振興計画2025」を策定し、需要に応じた麦・大豆の生産拡大に取り組んでおり、本計画では、その取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図る。

### (2) 県で推進する団地の基準等

国による国産麦の需要に応じた生産の推進に向けた取組状況等の調査(2020年)によると、本県では、田で作付けされる4麦の面積5,720haのうち団地化済み面積は3,386haで約6割を占める一方、4ha以上の団地は764haと全体の1割強である。また、大豆の生産状況等の調査(2020年)によると、4ha以上の団地はない。農作業の効率性向上等、生産性を高めるためには、団地規模の拡大が必要である。従って、本県が推進する団地面積の目標は原則4ha以上とし、また、団地化面積の拡大や団地化率の向上に努める。

なお、東郷町は都市近郊で農地の転用が多い地域であり、ほ場1枚あたりの面積が小さいことから、団地化面積は1haを基準とする。犬山市は小規模兼業農家による自家消費米の作付けが多く、小面積のほ場が多いことから、団地化面積は1haを基準とする。みよし市は都市近郊で農地転用が多い地域であり、小区画のほ場が多いことから、団地化面積は0.8haを基準とす

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・小麦については、愛知県麦民間流通地方連絡協議会の中で生産量や需要量が検討され、全量が播種前契約される。近年、アローワンスを超える豊作年が続いたが、販売は順調である。主力品種である日本麺用「きぬあかり」については、毎年2万t前後の安定した需要がある。パン・中華麺用「ゆめあかり」については、学校給食への導入などにより、今後、継続的に5千t程度の需要が見込まれる。タンパク質含量の高位安定化に加え、「きぬあかり」の需要動向とバランスをとりながら、「ゆめあかり」の生産に計画的に取り組む必要がある。

・大豆については、本県産「フクユタカ」は、主に豆腐用に用いられており、その需要は高く、その落札価格は全国平均より高い。2020年に収穫ロスを少なく改良された「フクユタカA1号」への全面切替が完了し、今後の生産量向上が期待されるものの、需要を満たすには至っていない。

※ 麦については、直近の民間流通連絡協議会における販売予定数量と購入希望数量がわかる資料を添付すること。

### (2) 生産における現状と課題

・小麦については、作付面積は増加傾向である。特に、これまで作付の少なかった尾張・東三河地域での新規取組が作付面積を押し上げつつあり、さらなる拡大が期待される。一方、古くから取組のある西三河地域では、「きぬあかり」と「ゆめあかり」のバランスのとれた生産拡大が期待される。なお、10aあたり収量は、「きぬあかり」への切替が完了したことなどにより向上しつつあるが、湿害対策の徹底、土づくり等基本技術の励行とともに、スマート農業の社会実装等により、さらなる高位安定化が次の課題である。

・大豆については、作付面積は微増傾向である。収穫機械、調製設備への投資等が障壁となり、麦の新規取組が始まった地域への大豆作導入が進んでいない。また、10aあたり収量については、減少傾向である。長雨や干ばつ等、異常気象により生産者の意欲が低下しており、改めて、湿害対策の徹底、長年の取組により低下した地力を補う土づくり等基本技術の励行が必要である。

・経営体への農地集積が進み、大規模化する中、基本技術や適期作業を励行するため、農作業の効率化が求められている。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移 (ha)				単収の推移 (kg/10a)				生産量 (t)			
		平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	きぬあかり	(4,870) 4,942	(4,885) 4,954	4,520	4,456	(391) 391	(545) 545	504	449	(19,041) 19,322	(26,614) 26,989	22,779	19,987
	ゆめあかり	(187) 190	(436) 442	1,078	1,261	(373) 373	(584) 584	468	428	(699) 709	(2,547) 2,583	5,050	5,392
大麦	カシマゴール	(63) 64	(82) 83	84	84	(341) 341	(489) 489	388	323	(214) 217	(402) 407	327	273
作物計		(5,120) 5,196	(5,403) 5,479	5,682	5,801	(390) 390	(547) 547	495	442	(19,954) 20,248	(29,562) 29,979	28,156	25,652

作物名	品種名	作付面積の推移 (ha)				単収の推移 (kg/10a)				生産量 (t)			
		平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	フクユタカ	4,530	4,396	4,071									
	フクユタカA1号		44	419	4370	品種ごとの単収・生産量は不明				品種ごとの単収・生産量は不明			
作物計		(4,310) 4,530	(4,214) 4,440	(4,260) 4,490	(4,150) 4,370	(142) 142	(62) 62	(112) 112	(110) 110	(6,118) 6,430	(2,610) 2,750	(4,772) 5,030	(4,568) 4,810

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (1) 取組方針

- ① 需要に即した生産と販売の実現
  - ・小麦については、作付面積を拡大し、需要に即した生産量の拡大を図る。具体的には、「ゆめあかり」について、西三河等の小麦生産に古くから取り組む地域を中心にタンパク質含量の高位安定を図りながら「きぬあかり」とバランスのとれた生産を図る。一方、安定した需要のある「きぬあかり」については、2万t前後の生産量を安定的に確保するべく、尾張・東三河等の新たに小麦生産を開始した地域を中心に導入を推進する。
  - ・大豆についても、作付面積を拡大し、需要に即した生産の実現を目指す。具体的には、尾張・東三河等の新たに小麦生産を開始した地域を中心に、小麦の裏作としての大豆導入を支援する。
- ② 団地化・連坦化の推進
  - ・人・農地プランによる農地の集積の推進等と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを実施するなど、団地化に向けた計画を各産地が作成できる環境を整備する。また、大規模生産者へのさらなる農地集積を念頭に、基本技術・適期作業励行のため、農作業の効率化を支援する。
- ③ 基本技術の励行とスマート農業の社会実装による小麦収量の高位安定化
  - ・「きぬあかり」に対する安定的な需要に応えるため、新たに小麦生産を開始した地域を含む県内全域で、収量の高位安定化が必要となる。このため、湿害対策の徹底、土づくり等基本技術の励行とともに、可変施肥システムを活用した施肥等スマート農業の社会実装をすすめ、収量の年次・地域変動を最小化し、生産量の維持に努める。
- ④ 湿害対策、土づくりによる大豆収量の向上
  - ・気象変動への対応するための湿害対策の徹底、病虫害防除の実施、及び地力の回復に向けた土壌改良材の施用等を推進する。

- ※ ① 需要に応じた生産と販売の実現、② 団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。
- ※ 都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

### 3. 課題解決に向けた取組方針・計画

#### (2) 計画

##### ① 生産量

作物名	品種名	令和2年(現状)						令和9年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
小麦	きぬあかり	(4,468)	4,536	(447)	447	(18,998)	19,287	(3,948)	4,000	(480)	480	(18,950)	19,200	7中5(2014-2020)
	ゆめあかり	(226)	229	(420)	420	(1,157)	1,175	(1,826)	1,850	(422)	450	(7,699)	8,325	5中3(2016-2020)
大麦	カシマゴール	(66)	67	(384)	384	(253)	257	(128)	130	(390)	390	(499)	507	6中4(2015-2020)
作物計		(4,760)	4,832	(429)	429	(20,408)	20,719	(5,902)	5,980	(460)	469	(27,148)	28,032	

作物名	品種名	令和3年(現状)						令和10年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
小麦	きぬあかり	(4,589)	4,673	(447)	439	(19,956)	20,322	(3,977)	4,050	(480)	480	(19,090)	19,440	7中5(2015-2021)
	ゆめあかり	(434)	442	(422)	422	(2,105)	2,144	(1,846)	1,880	(422)	450	(8,308)	8,460	6中4(2016-2021)
大麦	カシマゴール	(67)	68	(380)	380	(252)	257	(128)	130	(390)	390	(498)	507	7中5(2015-2021)
作物計		(5,090)	5,183	(433)	438	(22,313)	22,723	(5,951)	6,060	(460)	469	(27,896)	28,407	

作物名	品種名	令和元年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆	フクユタカ	(3,862)	4071					(0)	0					
	フクユタカA1号	(398)	419					(4,470)	4,700					
作物計		(4,260)	4490	(112)	112	(4,772)	5,030	(4,470)	4,700	(150)	150	(6,683)	7,050	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

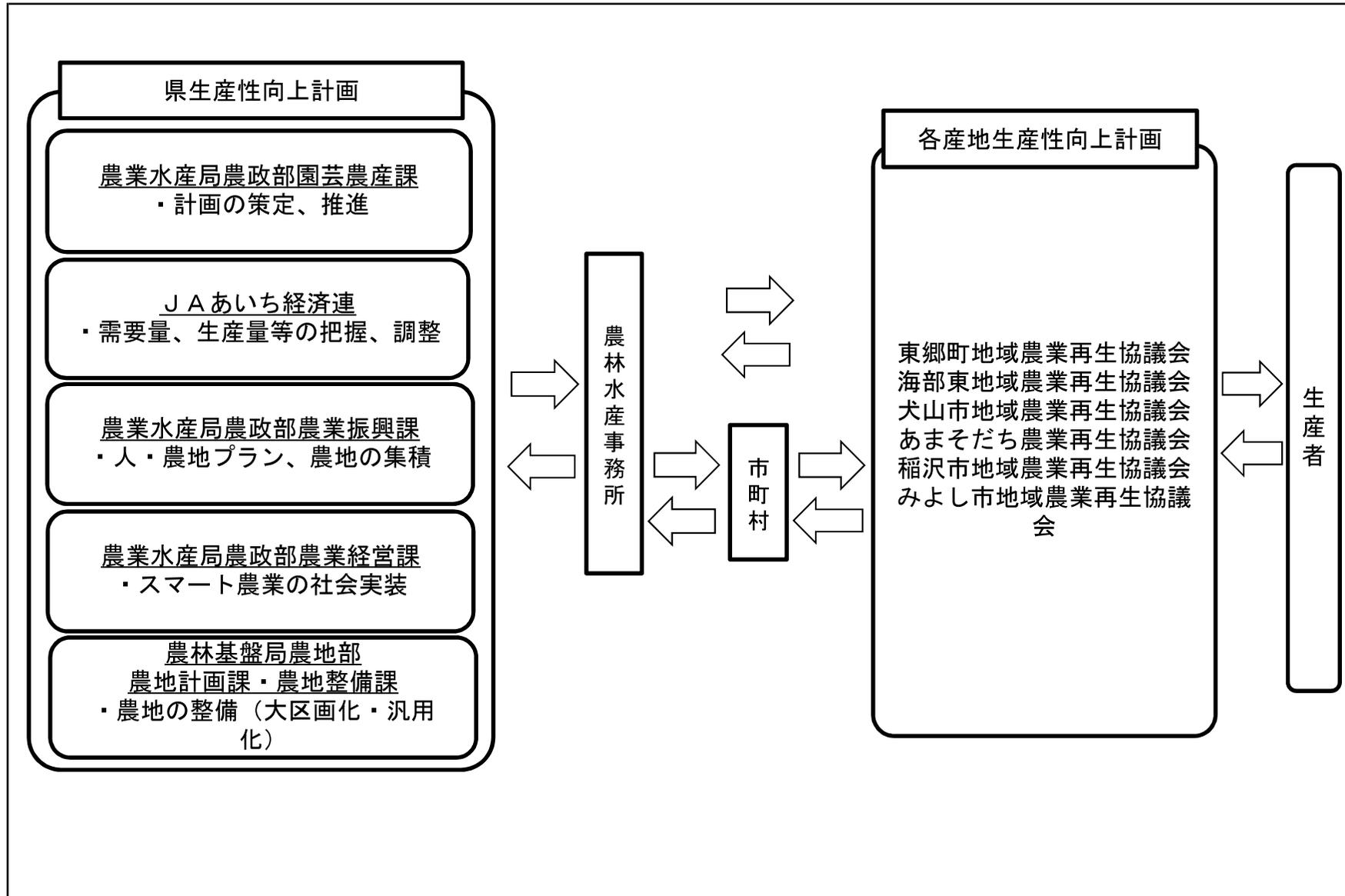
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

#### 4. 推進体制及び役割



## 5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	愛知県稲・麦・大豆生産振興計画2025	2020	麦・大豆の生産拡大について
2	農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針	2020	人・農地プラン等について
3	協同農業普及事業の実施に関する方針	2020	スマート農業の社会実装について
<b>具体的連携内容</b>			
本計画は「愛知県稲・麦・大豆生産振興計画2025」(以下、2025という)と連携して実施するものであり、2025に記載されたとおり、上記の関係する各施策等との連携・整合を図ることとする。			

## 6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	令和3～4年度 水田における麦の生産上の課題解決に向けた取組を支援
-	産地生産基盤パワーアップ事業	令和3～4年度 産地の高収益化に向けた取組や園芸作物等の生産基盤の強化を図るための取組を支援
-	水田農業経営所得安定対策推進費補助金	令和3～4年度 経営所得安定対策における、愛知県農業再生協議会、地域農業再生協議会の取組を支援
-	水田農業経営所得安定対策推進指導費	令和3～4年度 経営所得安定対策の推進
-	人・農地プラン作成費補助金	令和3年度 人・農地プランの実質化が遅れている市町村の取組支援 令和4年度 人・農地プランにおける「目標地図」の作成、プラン策定後の実行・フォローアップ等に対して支援
-	スマート農業推進事業費	令和3～4年度 スマート農業に関する相談体制の整備及び技術の現場実証・検証

※ 県段階で想定している事業名について、記載願います。

※ 別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※ 備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

## 7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	東郷町地域農業再生協議会	東郷町	水田麦・大豆産地生産性向上事業
2	海部東地域農業再生協議会	津島市、あま市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
3	犬山市地域農業再生協議会	犬山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
4	あまそだち農業再生協議会	愛西市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
5	稲沢市地域農業再生協議会	稲沢市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
6	みよし市地域農業再生協議会	みよし市	水田麦・大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付するものとする。

## 5年産生産計画案

生産者団体名:JAあいち経済連

(単位:トン)

麦種	銘柄		3年産	4年産	5年産	備考
小麦	きぬあかり	需要数量 (A)	19,730	18,350	21,360	
		生産計画案 (B)	19,653	18,100	20,470	
		ミスマッチ状況 (B)-(A)	▲ 77	▲ 250	▲ 890	
	ゆめあかり	需要数量 (A)	4,865	5,050	5,480	
		生産計画案 (B)	4,198	6,646	4,774	
		ミスマッチ状況 (B)-(A)	▲ 667	1,596	▲ 706	
	麦種計	需要数量 (A)	24,595	23,400	26,840	
		生産計画案 (B)	23,851	24,746	25,244	
		ミスマッチ状況 (B)-(A)	▲ 744	1,346	▲ 1,596	

需要数量:各社への仮の提示数量(R4年産の単収で試算)に対して回答いただいた希望数量を反映した数:  
 生産計画案:各社の需要数量も踏まえ、必要に応じて修正した生産計画案(~4年産は販売予定数量)